

平成 27 年度奈良市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会第 2 回	
開催日時	平成 27 年 8 月 17 日（月）午後 6 時 30 分から午後 8 時まで
開催場所	奈良市役所 北棟 2 階第 16 会議室
意見等を求める内容等	・総合戦略における具体的な施策について
参加者	出席者 5 人
開催形態	公開
担当課	総合政策部 総合政策課
意見等の内容の取り纏め	
<p>事務局・各部長による説明の後、出席者に意見等を求めた。</p> <p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>【もう一食もう一泊、ダイバーシティとインクルージョン、スタートアップの推進】</p> <p>大来氏：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光業で重要なのは滞在時間を延ばすことである。 ・奈良市においては、宿泊施設が少ない点と宿泊に値する魅力あるコンテンツの PR 不足の両面の課題がある。 ・消費単価を上げるには、エリア一帯で観光客を受け入れることが必要。 例えば、猿沢池周辺等の一等地の旅館はハイエンドな客層をターゲットとし、修学旅行生は少し離れた場所に宿泊をして頂いて観光バス等を利用し観光をしてもらうなどエリア一帯で棲み分けを行い、リピーターを増加させる。 ・ハイエンド層をターゲットにするなら消費単価の高い国であるフランスやオーストラリアなどを中心にすればよいのではないか。 <p>藤沢氏：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客のターゲットを決めることが大事。ターゲットを決めることで宿泊施設や交通等の環境整備を見直していくことが必要。 ・今の奈良市を維持しつつ発展させるにはターゲットをハイエンドな客層に絞るべきである。それには、グローバルな視点でハイエンド層の旅行者の意識やスタイルの調査を行い、見直していくことが必要。 ・起業をすることで大事なことはその場所で利益が出るかである。それには、消費マーケットが確立されていること、コストが安いことがポイントであり、利益が出る環境であ 	

ることのアピールが必要。

山本氏：

- ・奈良市の現状を生かした着地型観光の発展が必要。
例えば、外国人観光客が最近ではレンタカーを利用して観光をしていることから、レンタカーの多言語化対応、保険システムの確立、地図等のアプリケーションの充実を行い、効果を高める。
- ・奈良で起業をするというブランドの確立が必要。他府県での起業との差別化を図るために、奈良ロールモデルの発信を積極的に行うべきである。

中室氏：

- ・ターゲットをハイエンドに絞ることが奈良の魅力を生かしつつ、観光消費額を増加していくいい方法。資料より、年収が高いと支出額も高いという相関関係がわかる。ハイエンドであり、時間とお金があるということから導かれるキーワードの一つとして高齢者が挙げられる。奈良の観光資源も高齢者に魅力のあるものが多い。
- ・寺や温泉地ではバリアフリーなどの高齢者への対応を見直す必要がある。
- ・LGBT 層に関して、所得・社会的地位の高い方がマイノリティであることを積極的に発言しやすいだけだと考えれば、必ずしも LGBT 層の所得が高いとは言えない。
- ・ムスリム人口を取り込む視点は良いが、多言語化や保険への対応に加え、受け入れ側の価値観の多様化も必要。

伊藤氏：

- ・観光産業をクリエイティブ産業と位置付けることで付加価値を高めていき観光消費額を上げていく。
- ・三つの“T” {テクノロジー (IT)、タレント (能力・人材)、トレランス (ダイバーシティ)}、四つの“D” {デジタル (IT)、デザイン (景観)、ダイバーシティ、ディベロップメント (まちづくり・産業振興)} といったキーワードをもとに観光産業の施策を考えていくべきである。

【女性の雇用・再就職支援】

中室氏：

- ・待機児童の多くは 0～2 歳に集中していることから、その対応が必要。
参入と撤退が比較的容易であることから小規模保育事業は有効である。
- ・小規模施設と大規模施設とで健康や知的な発達にどのような違いが生じるのかを検証することで、利用者が安心できる。
- ・第一子出産後に復職をしようとする人を支援することが必要である。
就学年齢になった際に復職をしたいと考える女性が多いことから、復職しやすい環境を整える必要がある。

大来氏：

- ・企業側にも復職ができる環境整備が必要である。復職制度を行っている企業に対してインセンティブを与えることも大事である。
- ・女性に魅力のある仕事を増やしていく必要がある。例えば、観光関連での仕事を創造していくことが考えられる。

伊藤氏：

- ・奈良市の場合、M字カーブの2つ目の山がない。
- ・復職する環境や仕事がないことから、女性の能力が活かせる雇用を創出するなど、仕事の供給側の改善が必要である。

【攻めの高齢者対策、魅力を感じるまちづくり】

山本氏：

- ・オールドニュータウンなどの群で高齢化が進んでいる地域に重点的に対策を行うことが必要である。
- ・パークマネジメントをしていく上で市民が活躍し、魅力のある地域資源を創造していくことを目標にすることが良いのではないか。例えば、トランジション・タウン発祥のイギリスのトットネスでは、市民が中心・主体となって公園の整備を行い、外部の人も巻き込みながらワークショップを通じて公園づくりを行っている。その結果、公園めぐりツアーや公園が観光名所となっており、地域資源に繋がっている。

伊藤氏：

- ・高齢者の問題は、高齢者人口の地域分布状況によっても左右されるため、データに基づいた戦略は効果的である。

以上